



只見ユネスコエコパーク登録 1周年を迎えて

～これまでの取り組みと今後の方針について～

只見町長(只見ユネスコエコパーク推進協議会長)
目黒 吉久

去る6月12日、只見地域はユネスコMAB計画における生物圏保存地域(ユネスコエコパーク)の登録から1周年を迎えました。只見町は、このユネスコの国際的な取り組みの中で、「只見地域の豪雪に育まれた自然と生活・文化を守り、活かす」地域づくりを進めています。

この1年の取り組みと今後の進め方を紹介します。

■ユネスコエコパーク推進にあたっての基本的な考え方

過疎・高齢化が進む只見町ですが、その地域社会の将来の維持・発展のためには、只見地域の豪雪に育まれた自然と生活・文化を守り、産業振興を図りながら、持続可能な地域社会を創っていくことが重要です。只見町は、そうした地道な地域づくりを具体化するための制度的枠組みとしてユネスコエコパークを活用しようとしています。そうした意味でユネスコエコパークは、登録による観光客の増加など“賞味期限付き”の一時的な変化を期待するものではなく、確かな地域づくりを目指した自発的、独創的事業を長期に積み重ねていくことが重要と考えています。

■ユネスコエコパーク登録の意味

只見地域のユネスコエコパークの登録は、当地域の豊かな自然環境とそこに育まれた伝統的な生活・文化がユネスコに認められるという国際的な評価であることは言うまでもありません。一方で、地域住民や関係者の皆様がそうした価値を継承・発展させ、自然と人間活動の調和を実現するというユネスコエコパークの理念・目的を実践することが求められています。また、そうした成果を国内外に広く情報提供するなど、国内外のユネスコエコパークと連携・協力し、ユネスコのMAB計画に貢献していくという義務も生じていることを忘れてはなりません。

■推進体制の整備と只見ユネスコエコパーク管理運営計画の策定

登録からこの一年の間、只見町は、ユネスコエコパーク推進のための中核組織となる「只見ユネスコエコパーク推進協議会」を関係24団体で発足させ、また、その中に学識経験者からなる諮問機関「只見ユネスコエコパーク支援委員会」を組織するなど、只見ユネスコエコパーク活動の推進のための体制整備に努めてきました。また、推進協議会は、今年2月に、今後10年間の只見ユネスコエコパーク活動の指針となる「只見ユネスコエコパーク管理運営計画」を策定しました。

■ユネスコエコパーク関連事業の実施

只見町は、「只見町ブナセンター」を只見ユネスコエコパークを推進するための中心組織として位置付け、その理念・目的を具体的に実現するため関連事業を実施しています。その主なものは、以下になります。

- ①自然環境の保護・保全：ナラ枯れ対策事業、湿原の保護・保全事業、
「ただみ・観察の森」の整備
- ②学術調査研究・人材育成：「自然首都・只見」学術調査助成事業、自然環境基礎調査
(昆虫相調査)、ユネスコスクールへの支援
- ③地 域 振 興：「自然首都・只見」伝承産品ブランド化支援事業、町公認ガイドの育成
(エコツーリズム・グリーンツーリズムの推進)



①自然環境の保護・保全
巨樹・巨木の保全
(ナラ枯れ防除作業)



②学術調査研究・人材育成
伊南川の淡水魚類相調査
(アクアマリンふくしま、西部非出資
漁業協同組合と共同実施)



③地域振興
「自然首都・只見」伝承産品ブランド化
支援事業(町内業者・団体等による只
見産原の料や伝統技術を使用した産
品の開発や技術伝承を支援)

■今後の課題と取り組み

只見ユネスコエコパークを推進するための只見町の当面の課題は、「只見ユネスコエコパーク管理運営計画」に基づき、今後10年間に只見町が取り組むべき「只見町ユネスコエコパーク推進行動計画(仮)」を策定し、計画された関連事業を確実に実施していくことです。そのためには、ユネスコエコパーク、そしてその関連事業に対する町民、関係者の皆様の理解と協力、協働が不可欠です。さらに、只見町としては、町民の皆様の自主的で長期の地道な取り組みにも大いに期待をしております。そのために引き続き、只見ユネスコエコパークの啓発・普及により一層努め、また、地域住民や関係者の皆様の自主的で主体的な只見ユネスコエコパーク推進のための活動に対して最大限の支援と協力を行っていきたいと考えております。

只見ユネスコエコパーク登録1周年記念事業 — 檜枝岐歌舞伎の上演 —

只見ユネスコエコパークの一部である檜枝岐村と共にユネスコエコパークを推進する協働の事業として、地域の伝統芸能である檜枝岐歌舞伎を迎え、上演を行う予定です。

日時：平成27年11月14日(土) (上演開始時間は未定)

場所：只見小学校体育館

